



紙の上の直線

紙の上の直線は、紙の表面に描かれた直線が、光の反射によって立体的な印象を与えるというコンセプトで制作された。直線は、紙の表面に描かれた直線が、光の反射によって立体的な印象を与えるというコンセプトで制作された。直線は、紙の表面に描かれた直線が、光の反射によって立体的な印象を与えるというコンセプトで制作された。



学芸工術美術金 行機園北: 新主
ミヤエーテ栄金人志〇チイ宝臨: 代財
ミヤエーテ栄金人志〇チイ宝臨
TEL: 076-522-7380 info@artmuseum.jp
AWAZUMI ART MUSEUM

北國銀行×金沢美術工芸大学連携事業 第14回コポレートアート展
クニト個展 紙の上の直線
2024.2.8(木)→2.25(日)
10:00→18:00 水曜定休 入場無料
会場: 金沢アートグリ
アーティストトーク: 2月11日(日)18:00～(約90分) 参加無料 予約不要
ゲスト: 野中祐美子(金沢21世紀美術館学芸員)
※トークの後、交流会を行います。



時空の形

直の土の形

モノゴトの持つ二面性は、私の制作の中での大きな関心事です。
それはジグソーゼに向かう手前の段階で、世界はテーゼとアンチテーゼがせめぎ合っています。
せめぎ合っている状況こそが、「現在」という時間の中の一瞬です。
しかし、ヘーゲルが唱えた弁証法よりも世界の模様は複雑に構成されています。
楽しいアンチテーゼは、楽しくないという否定ではありません。
面白い、怖い、美しい、憎い、もしくは、悲しいといったように全く別の独立したものになります。
ヘーゲルの歴史的時間観の中では、それらのものがジグソーゼに至りますが、
現在を生きる人間にとってそんなことは、おかまい無いです。
答えのない混沌の中に現在があり、その状況を楽しむことこそが今を生きている私たちです。
私の表現する二面性は対立や否定ではなく幾つもの多様性のある世界観を認知する行為です。
その上で時間をテーマにすることは、時間が未来へ一方方向に進むという理にとらわれず、
過去と向き合い、今という時間のパラレルワールドを考えます。鏡に映った自分は、ほんの少し過去の自分が映り出されます。
宇宙(世界)を湾曲させ、ぐるっと一回りしてのぞきみた自分自身は、現在の姿ではなく未来の自分になります。
紙の上の直線は紙をぐるっと丸めれば、空間で自由に湾曲し直線ではなくなります。
時には、はじめとおわりがつながります。今回の展示では宇宙の湾曲を観測できるような作品を見せたいと思います。

展覧会「直の土の形」開催 美術界新年大賞工芸美術賞×行楽園北

直の土の形 展覧会

(日)25.5 ← (木)8.5.4505

休無日人 村家野水 00:81 ← 00:01

アート界
1993年 第1回 大賞受賞
2007年金沢美術工芸大学大学院美術コース修了
2018年金沢美術工芸大学大学院彫刻分野博士号取得
モノゴトの二面性をコンセプトに樹脂や布、やきもの、
木材、光、ガラス、その他のさまざまな素材を用いて、
インスタレーションや彫刻などの幅広い表現で制作している。



主催：北國銀行 金沢美術工芸大学
協力：認定NPO法人金沢アート Gummi
認定NPO法人金沢アート Gummi
石川県金沢市青草町88番地 北國銀行美哉ヶ辻支店9階
TEL.076-225-7780 info@artgummi.com

ART GUMMI